# Ｖ戦士

徳島県バレーボール協会中学校専門部便り　冬季６０号

## 昭和から平成・令和へ

高橋利明

### その２１　全中バレー徳島大会　～会場と準備～

全中バレー徳島大会の細々した準備も進めていかなければならない。まずは，会場を決めることから始まった。私は，「開会式会場・アスティとくしま」「試合会場・徳島市立体育館，北島町北公園総合体育館（通称「サンフラワードーム北島），松茂町総合体育館」を考えていた。しかし，多くの問題があった。

松茂町総合体育館は，メインコートは３面のバレーコートを設営できるが，中央部のコートは９人制のコートであって６人制ではない。それを改修するには経費がかかりすぎる。松茂町とも何度か交渉したが断念した。（現在は改修済み）

北島町北公園総合体育館は，屋根がテントになっているため晴れた日と雨や曇った日ではボールの見え方がわかりにくい。また，役員控え室が十分ではない。しかし，エアコンが付いていることは大きなメリットだった。役員の控えは外にテントを張ることで対応した。また，北島のＪＡ（現在，板野郡北島支店。以下「ＪＡ北島」という）に出向いて，
地元の新鮮な野菜を販売すること，近くに店もないためＪＡ北島がかき氷販売すると暑さをしのぐことができて喜ばれることを提案し，ＪＡ北島了解し出店していただくことになった。大会後にＪＡに聞くと，思った通りの結果だった。また，北島町議の力添えもあり，北島町にある大塚製薬の空き地を貸していただき助かった。

松茂町総合体育館での会場を諦め，小松島市立体育館に会場にすることを頼みに行くことにした。この体育館を使用するためにはメンテナンス上の問題があった。その問題を解決するには，多くの経費がかかる。その修繕等について館長（兼小松島市体育課長）にお願いしたが，予算の都合もあり首を縦に振ってはいただけなかった。しかしながら館長は，私たちの要求もすべて受け入れていただき，会場を整備してくれることになった。感謝しかない。

また，小松島西高校が製造・販売しているおからを使ったアイスクリームを会場で販売することで，インターンシップ（職場体験）にもつながることを小松島西高校に提案をした。高校側は即決了解し，インターンシップ（職場体験）かつ高校生の活動を全国に発信するインフルエンサーにもなった。

徳島市立体育館は，メイン会場のため多くの業者がテント販売する依頼が殺到したが救急車が入れる通路も確保しなければならない。業者との様々な交渉の結果，テントは，こちらが決めた場所にテントを張るという条件で実施することになった。

次に，開会式の会場である。出場チーム数の考えても，徳島市立体育館は無理がある。視察に行ったメンバー全員がアスティとくしまでの開催を求めた。しかし，残念ながら県中体連は認めなかった。その大きな理由は，費用にあった。私は，「費用はどうにかする。それよりも来ていただいたチームが喜んでもらえるようにする“”おもてなし”をしなければならない。よく，四国八十八カ所巡りのお遍路さんに“もてなす”文化がある。その象徴が，開会式ではないか」と。県中体連は徳島市立体育館で開会式を行うようことを指示した。ところが，２００８年度になると，考えを急転換してきた。「開会式はアスティとくしまでしてもよい！」というのだ。狐につままれたような気分とホッとしたような気分が交差した。県中体連の意図ははっきり分からなかったが，新体操競技（３日間）は“アスティとくしま”ですること（警備上の都合）を主張した。それが認められた。そうなれば，それよりも前にバレーボール競技側が，「開会式は“アスティとくしま”でする」と言い続けていたのにもかかわらず，バレーボール競技は認めないというのは不公平であると判断したように察した。

早速，アスティとくしまで開会式が行えるように準備を開始した。まずは，当時の徳島県高校総合体育大会の開会式をアスティとくしまで開催していたため，気をつけなければならないことや何か得られるものはないかと見学に行った。まずは，ステージに花が飾られている。その花は，城西高校が育てたものだった。前もって連絡しておくと提供してくれるという。次に，大型液晶ディスプレイを活用するということに着目した。大会名だけでなく，動画を映し出すこともできるに考えた。（後述　その２２へ）

しかし難題が待ち受けていた。多くの人たちが集まる際には，警察（徳島東署。現在，徳島中央署）に大会計画を提出しなければならない。新体操競技の参加人数は多くないため，特に問題はなかったが，バレーボール競技はそうはいかない。徳島東署に出向き，大会の規模等について話をする。かなりのバスや自家用車が駐車するために，臨時の駐車場を別に作るように指示された。それは，簡単な作業だと思ったが，とんでもない労力が必要だった。しかし，ある方に相談することによってその難題はスムーズに解決することになった。

続いて，練習会場を平行して探していた。意外と早く，見つかり安心していた。しかし，全中を一緒に行うバドミントン競技が全く練習会場をとっていない。私は，「バレーボール競技の練習会場数の半分をそちらに提供してもよい。」ということを提案し，バレーボール競技に頼んであった練習会場をバドミントン競技に提供した。私は，高校に頼んだらすぐに練習会場を押さえることができると踏んでいた。ところが，中学校の大会に高校が協力することに難色を示された。結局，何度も高校側に出向き，了解していただいた。「人がよすぎるのも善し悪しだ。」と痛感した。

それ以外に，「審判クリニックの会場が必要であるので，アスティとくしまに隣接する大学の体育館を借りて欲しい。」と審判部からの要望があった。交渉の結果，「中学校の大会のために使う」ではなく「全国から集まってきた審判の講習会を行うために使う」ということで了解が取れた。

プラカードがない。６４のプラカード（男女各３２チームが参加）と先頭の大会名を記したプラカードがない。同じ規格のプラカードは県内にはなかった。しかし，それをカバーしたのが本田晴啓先生（当時，小松島中教諭）だった。数名の役員を巻き込んで，１週間ほどで作り上げた。そのスピーディーな対応と見事な出来ばえはすごかった。

大会ホームページが必要だ。当時、大会のホームページを製作している大会それほど多くはない。また、製作しなければならないこともなかった。しかし、大会を盛り上げる手段、試合結果だけでなく、危機管理のための情報提供にも必要だ。費用やアイデアはない。NMT（ニューメディア徳島）に協力を求めた。当然，簡単にクビを縦には振ってくれない。何度も何度も交渉し続けた。そしてついには，その熱意に同意していただいた。ありがたかった。そのホームページを制作にあたり，「実行委員長の挨拶文を巻頭に入れたいので，書いて欲しい。」と言われた。当初は，戸惑っ

たが，ありがたい話でもある。そして，考えたのが，
① 普通の挨拶文ではないものする。なぜならよくある挨拶文などスルーされる可能性がある。
② 読んだだけでバレーボールをしている様子を「起承転結」にまとめる。
③ 今大会のキャッチコピー“完全燃焼”を入れる。
④ 夏に行う全中にふさわしい内容にする。
⑤ 「目指す」「熱い心」を入れる。
である。それは，開会式の開会宣言で言った言葉だった。（詳しくはその２３へ）

その他，様々な先生や関係者の力によってできた手作り感満載の全国大会である。私は，この大会のプロデュース力は今でも絶対に１番だと確信している。

## その２２　全中バレー徳島大会　～五者会議（日本中体連への計画書提出）～

５月１１日，東京に出向き，岸記念体育会館（当時，東京都渋谷区神南 1-1-1 にあった）
そこで，“今までにはないことをする！”画期的なことを提案しました。（全中バレー大会としては初めてのものばかり）

Part１　【危機管理】
警報発令時の対応の仕方について，初めて明記したことだった。それまで，武勇伝のように「『（警報発令の都合で）夜遅くまで試合を行った。』と語る方がいた。しかしこれは，正しくない。」と過去のエピソードを全否定した。「警報発令時（または，台風がやって来て警報が出そうなとき）の対応や連絡の仕方」について明記する必要がある。当時，画期的だったのが携帯電話の利用だった。警報発令時にチームや役員にどうやって伝えるかが課題だった。テレビ・ラジオといったマスメディアの利用は，「情報提供できるエリアに制限がある」「マスメディアが取り扱ってくれるかどうかわからない。」と考えた。何かいい方法はないかと思っていたときに，全国高等学校文祭実行委員長（当時，徳島商業高校の教頭から出向中）宮崎忠司先生から「何か連絡をチームに連絡したいことがあれば，携帯電話を利用すればよい。チームに１人くらいは携帯電話を持っているはず。」というアドバイスをいただいた。（当時，まだまだ携帯電話の普及は今のような状態ではなかった）早速，携帯電話を見て情報提供ができるサイトを開設した。

Part２　【カメラ・ビデオカメラの制限】
同じプレハブ（徳島県全中実行委員会会議室）で過ごす新体操競技事務局では，盗撮が問題になっていた。一切のカメラ・ビデオカメラの持ち込みを禁止にしていた。以前，バレーボール競技でも盗撮をどう対応すればよいかについて話し合ったが棚上げ状態であると視察先からも聞いていた。そこで，「各チーム撮影できる者は３名までとし，その方には名札を提供する。」ことにした。このことについて多くのクレームがあった。そのため監督会議で，「１人が何台ものカメラ・ビデオカメラを持つことについては禁止していない。カメラを持って撮影する方を限定することによって盗撮を防止したい。」と答えた。

Part３　【下も白帯がついているバレーボールネットの使用】
当時，ネットについて下に白帯がついているものとついていないものが混在していた。三重全中では下に白帯がついていない従来のネットを使用していた。私は，「今大会では，下にも白帯がついているネットを使用します。」と言いきった。すると，高橋健太郎日本中体連バレーボール競技審判委員長から「徳島のプレ大会に行ったとき，下に白帯がついているネットは全部なかった。」と発言された。私は，「これから各会場において買ってもらうことになっていますので心配しないでください。」と答えた。実は各会場・練習会場にその旨を依頼していたがなかなか購入していた

だけなかった。そのため，各会場・練習会場に出向き，連絡をしてそのネットを購入するようにお願いし，大会当日までには全ての会場で間に合うことになった。それ以降，全国のバレーボールのネットは，“下にも白帯がついているネット”になった。（その大きな理由は「その２４」に記載）

Part４　【メールでの申込】
　それまでは，メールでの申込は，正式なものとしては認めないとしていた。（校長印がない）しかし，三重全中のとき，ある事情で困っていた。（それは，今後もありえることだと感じた）それで，「メールでの申込は，大会プログラム用に使用する。（事実上，正式な申込として認めたことになる）校長印のある申込は後日において郵送する。大会プログラムのメンバーと正式な申込のメンバーと違うことになる場合は監督会議のときにエントリー変更用紙に記入して提出すればことは足りる。」何でもないようなことだが，これも大きな改革だった。

Part５　【生徒役員・監督会議（名称について）】
　それまでは，“生徒補助員”という表現だった。しかし，「生徒も立派な仕事をこなす“役員”である。」ということで，『生徒役員』という表現にした。
　また，日本中体連からは，「“代表者会議”ではなく“監督会議”という表現を使うように・・・。“代表者会議”にするとチーム関係者誰でもいいことになるから。」という理由だった。それ以降，徳島県中学校での大会におけるこれからの名称は現在でも使用されている。

## その２３　全中バレー徳島大会　～開会式～

　日本中体連から「開会式はハデなことはしないように！」と言われていた。そのとき「ハデとは，どういう意味ですか？」と尋ねると，「開会式のためにお金を使うなということです。」という回答であった。そのため私は，「『お金をかけないで，徳島のよさを著した開会式を行う。』それが，プロデューサー（実行委員長）の腕の見せ所ではないか！」と。
　まずは，“行進曲は，ＣＤで十分！”（視察した大会がそうだった）を否定し，勤務先（八万中学校）の吹奏楽部に依頼すると顧問の先生も生徒たちも大喜びしてくれた。しかし，お金を使ってはいけない。そこで・・・
①生徒たちは自転車で来る。
②楽器をよく運送していただいている運送会社に交渉した。「お金がありません。トラックで楽器を運んでください。お願いします」」と頼むと快く了解してもらえた。（八万中学校吹奏楽部をはじめ多くの中学校吹奏楽部が楽器を運ぶ度にこの運送会社に依頼をしたためだろうと思った）

　徳島といえば，阿波踊りに人形浄瑠璃である。阿波踊りは，その吹奏楽部の部員が踊ることができるため生徒が多いため，頼むと喜んで踊りのフォーメーションを考えて踊ってくれた。人形浄瑠璃は，川内中学校の民芸部に依頼した。承諾をしてくれたが，太夫はいない。（太夫はいつも大人が行っていた）しかし，探していると那賀川中学校の生徒で三味線を習っている生徒が太夫もできるという情報が入った。そこで，その生徒が習っている三味線教室に出向いて交渉をすると快く了解を得た。（このときの私は，徳島市中学校総合体育大会４日目終了した翌日の午前中で，４日間睡眠時間なしの状態だった）しかし，その生徒は全中剣道大会（徳島開催）に出場するほどの剣士でもあった。そのため開会式会場の「アスティとくしま」で練習なしのぶっつけ本番となった。

　春選抜高校野球大会の開会式を見て，「何か得るものはないだろうか？」とテレビの映像を見ていた。そして，「これだ！」と思ったことがあった。『君が代』を高校生が斉唱していた様子だった。中学生で斉唱できる生徒はいないだろうか？すると，「四国ナンバー１の独唱する生徒が鴨島第一中学校にいる。」という情報を得て，交渉することになった。すると，保護者も本人も音楽教

室の先生も「是非！」と賛同してくれた。
　これらの方々の共通したコメントは，「全国大会で披露できるなんて，この上ない。」だった。私としては感謝しかない。

　もっとできることはないか・・・徳島県庁・観光政策課に乗り込み，映画「『バルトの楽園』を全国のバレーボールをしている選手にも知らせることによって徳島のいいところをアピールしたい。予告の映像を貸してください。」それに対し，「東映に連絡して，先生に必ず渡します。」（開会式当日，「何で『バルトの楽園』？』という声も聞こえてきたが，そういう意図があった。私にとってこの言葉はある意味，「よし！」と思いました。というのも，バレーボール競技とは縁遠いことをアピールすることによって心に残ったはずだと確信したからだった）

　ということで，開会式にかかった経費は，０円！みんなの理解と協力を元にした地元・徳島を大々的にアピールしてしかも，生徒が主役。我ながら自画自賛。

　さらにこれこそ「手作り感あり！熱意あり！」の動画を製作した。会場いっぱいに渦で巻き込んだような映像だ。勤務先の中学校の先生方やバレーの試合が終わったチームにビデオ撮影を行い，「撮影の最後にカメラに向いて決め台詞“完全燃焼”と言って欲しい！」と。その映像を編集して，開会式５分前に大型液晶ビジョンにその編集したビデオを流した。その映像が流れ終わると照明は，暗転。そして再び全照し，開会宣言を私が行ったのでした。それは・・・

　この台詞は，バレーボール競技を行っている中学生にとっての『バレーボール賛歌』ではないかと思っている。

## その２４　全中バレー徳島大会　～試合開始・・・そして閉会式～

試合が始まれば，後は役員や生徒役員にお任せになる。特に，ホームページに試合結果を載せる役員の先生方に対して，後に絶賛をいただいた。というのも，リーダーだった尾関英知先生（当時，三加茂中学校教諭）が過去の全中で感じたことは，試合結果がいつになったらホームページにアップするのかわからないくらい遅いと感じていたため，「全中バレー徳島大会は試合終了後２０分以内には必ずアップするように！」と指示し，生徒役員も必死になってインタビュー等の活動を行い，全試合において１０分程度でアップできたことだった。
また，多くのの役員の先生方をはじめ生徒役員，全国から来ていただいた審判員，日本中体連バレーボール競技の役員の先生方の協力もあって，順調に試合が進んでいった。

しかし，２件のクレーム電話があった。
１件は，練習会場のことだった。あるチームが大事に使っているテニスコートを横断したということだった。すぐに，練習会場の学校に出向き謝罪，そしてその中学校に厳重注意をおこなった。
２件目は，会場からだった。日本中体連バレーボール競技のスタンスは「あるもので行う。」そのため，会場においてもある機材で行うことを旨にお願いにあがった。（ネットは，どの会場も古かったので新調する必要があったので，上下とも白帯のネットに新調してもらった）トラブルが発生した原因は，ベンチの問題であった。ある会場で，「監督席は，パイプ椅子にして，選手が座るベンチは長いすにして欲しい。」という要望があったため，そこの館長は急遽，大会前日に他会場から長いすを借りてきた。しかし，翌日の新聞に掲載されている写真のベンチは，全てパイプ椅子だった。「全部パイプ椅子でいいのなら，前日走り回らなくてもよかった！」と激怒していた。そんな要望が知らない間にあったというのは私の責任でもある。とにかく，頭を下げるしかなかった。

予選リーグが終わった後，決勝トーナメントの抽選会である。本部にしているホテルで実施した。女子には大きな部屋を提供したが，男子には適当な部屋がなかったため，狭い部屋で行う。そのため，監督のみがその部屋に入って抽選を行うことにしたが，各監督からクレームが続出した。「キャプテンに抽選させて欲しい。」とことだった。急遽，そのことを認め，事を納めたが，自分自身甘い判断だった。反省するばかりだった。

いよいよ決勝戦前。試合開始前のＢＧＭに『パイレーツ オブ カリビアン』を選曲した。私の勝手な想いだが，“これから，始まる決勝。それぞれの鼓動が響き渡る・感じる曲”として選曲した。
そして，決勝戦が始まる。私は，今大会で初めて試合を観戦することができた。といっても，５分も程度だった。男女の決勝戦共に徳島市立体育館は満員だった。その観客の大人も子どもも行儀よく観戦していた。まるで，正座をしているかのように。驚きの光景だった。

閉会式において残念なことが２つあった。
一つ目は，恩師・井上肇先生（徳島県バレーボール協会副会長）からの言葉だった。（詳細は控える）はっきり言って納得はしなかった。「これだけしんどい思いをしたのに・・・。」という思いがあったからだ。二つ目は，会場を片付ける際に，大会ロゴマークを次年度，全中バレー岩手大会の視察の先生方に参考資料として持って帰られた。記念に家に飾りたかった。

## その２５　全中バレー徳島大会　～エピローグ～

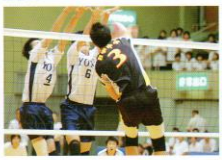
全中バレー徳島大会は盛大に終了した。そのとき，よく「何故，自分から“する”と言ったのか？」と。それは，「“全中”に出場しようと思えば，毎年誰にでもチャンスがある。しかし，“全中”をプロデュースしようと思えば，一生に一度しかない。プロデュースできたことが自分の最大の財

産です。」再びチャンスがあれば，またやってみたい。それは，そのときの想いでもあるし，今もそう思っている。

大会終了後，ＪＯＣジュニアオリンピックカップの練習用ボールとかごを購入した。また，徳島県中学校新人バレーボール大会，徳島県中学校バレーボール選手権大会の優勝旗４本を製作した。カタログを見て，優勝旗は一番高いものを発注した。いつまでも大事に使って欲しい。

# 決　　勝

## 余土（愛媛）２－０日宇（長崎）



第１セット、余土の長身セッター森の組み立てたトスで力強い攻撃を日宇の高い３枚ブロックで受けて立つという一進一退の展開を見せた。しかし、19－20から、日宇のサービスミスをきっかけに余土の３番玉乃井　６番村上の活躍で25－21ととった。第２セットも第１セット同様、エースが打ち合う試合になった。しかし、相手の攻撃を巧みにブロックにかけ、自らの攻撃に組み替えていく余土が徐々に勝っていく。日宇もバックアタックやブロックポイントで23点まで追いついたが、最後は日宇のアタックがアウトになり、余土が優勝した。

## 文京学院女子（東京）２－１築上東（福岡）

第１セットは立ち上がりから激しい攻防が繰り広げられた。終盤、築上東７番中筋のサーブで崩し、25－22で振り切った。第２セットは文京学院８番富塚の好サーブでレシーブを崩し、25－10の大差で取り返した。第３セットは築上東のアタッカー陣がブロックアウトをねらう作戦に切り替え反撃した。両者とも一歩も譲らず２点差以内の状態が続いたが、23－21から築上東のアタックが２本アウトになると一気に文京学院に流れが傾き、最後は高さのある文京５番山川のブロックで25－23となり逆転した。

第36回全日本中学校バレーボール選手権大会
徳島大会
平成１８年度　全国中学校体育大会　　広報誌【No．２６】

### 8月23日　女子予選グループ戦　Hコート第1試合

品川区立大崎中学校（東京）　2（25-17, 25-27, 25-23）1　延岡市立東海中学校（宮崎）

うれしい試合でした。順調って、2試合目も勝ちます。明日は、ボールをつないで頑張ります。
大崎中監督　堀野　要

全国優勝をかける大事な試合なので、絶対勝ちたかった。もう一回神経して、勝てるように、次の試合に臨んでいきたいです。
東海中監督　岸田秀文

### 8月23日　女子予選グループ戦　Iコート第1試合

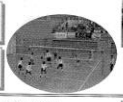
みなべ町立南部中学校（和歌山）　2（25-21, 22-25, 25-21）1　川崎市立長沢中学校（神奈川）

まだ緊張していて、自分たちのプレーができてなかったが、選手たちはよく頑張ったと思う。粘りができてよかった。もう、上がれるところまでと祈りたいです。
南部中監督　吉田尚史

緊張しすぎていたのか、しなさすぎていたのか、力を出し切れずに終わった。相手の速攻を防げなかったし、自分たちのサーブも甘かったので、そこを直して次の試合を頑張りたい。
長沢中監督　青木祥子

広島市立翠町中学校（広島）　2（23-25, 25-13, 25-11）1　美馬市立穴吹中学校（徳島）

初戦だったので、いつものの力が出せませんでしたが、会場の雰囲気にのまれず、頑張ったと思います。翠のバレーをしていきたいです。
翠町中監督　新川恵美



リズムをつくりきることができなかったので、次の試合では、自分たちのリズムがつくれるように頑張りたいです。
穴吹中監督　大谷一幸

### 8月23日　女子予選グループ戦　Iコート第2試合

長野市立綿花中学校（長野）　2（25-21, 23-25, 25-16）1　諫早市立諫早中学校（長崎）

ミスしても切りかえて、自分を信じて、仲間を信じて、自分たちのプレーができていた。点が離れても、追いつけたので良かったと思う。次も、全員バレーで戦いたい。
綿花中監督　岡田隆安

集中力が続かなかった。やはり、ブロックの差だと思いました。それと、最後は、やはり伝統の違いだと思いました。
諫早中監督　千綿和子

http://www.zenchu-volley38.ok1.jp/koho/colum.cgi　携帯サイト http://zenchu-volley38.ok1.jp/zvt38/

完全燃焼

# 閉会式

●表彰

優勝旗授与

賞状授与

優秀選手発表

●成績発表

バレーボール競技
競技副委員長　清水　俊宏

●あいさつ

徳島県中学校体育連盟
会長　土也　真和

徳島県バレーボール協会
会長　岩野　匡美

●閉会宣言

徳島県中学校体育連盟
専門委員長　立石　房徳

（写真等は「第３６回全日本中学校バレーボール選手権大会・報告書」より引用）

## 県選抜女子 決勝Tへ

バレーボール　JOCジュニア五輪

バレーボールのJOCジュニアオリンピックカップ第36回全国都道府県対抗中学大会は26日、大阪市立浪速スポーツセンターなどで開幕し、男女の予選リーグが行われた。徳島県選抜は、女子が決勝トーナメント進出を決めた。

女子の徳島県選抜は岡山との第1戦を0―2で落としたものの、兵庫との第2戦は2―0で快勝。3チームが1勝1敗で並び、徳島は得点率で2位となり、決勝トーナメントに上がった。

男子は第1戦で北海道に0―2で敗戦。第2戦は和歌山を2―0で下し3チームが1勝1敗で並んだが、得点率で和歌山、北海道を下回り、決勝トーナメントに進めなかった。

◇徳島県関係

【男子】予選リーグ16組

北海道 2（25―20、25―16）0 徳島

徳島 2（25―22、25―23）0 和歌山

【女子】予選リーグ14組

岡山 2（25―23、25―17）0 徳島

徳島 2（25―19、25―22）0 兵庫

## 県選抜女子敗退

決勝T 1回戦

バレーボール　JOCジュニア五輪

バレーボールのJOCジュニアオリンピックカップ第36回全国都道府県対抗中学大会第2日は27日、大阪市のエディオンアリーナ大阪などで男女の決勝トーナメントが行われた。予選リーグ2位で勝ち上がった女子の徳島県選抜は、1回戦で東京に0―2で敗れた。

第1セットを16―25で落とした徳島は、第2セットもリードを奪われる苦しい展開となり、反撃も及ばなかった。

◇徳島県関係

【女子】決勝トーナメント1回戦

東京 2（25―19、16―25）0 徳島

徳島新聞

2022年（令和4年）12月27日・28日の記事より